

29【C】0903

共生渦鞭毛藻由来の生物活性物質の探索と開発
Bioactive substances from symbiotic marine dinoflagellates

○津田 正史¹(¹ 北大院薬)

海洋産無脊椎動物からこれまで単離されてきた化合物の少なからぬ部分が、これらの動物に共生する微生物の代謝産物であることが考えられてきた。私たちの研究室では、沖縄産の海洋扁形動物ヒラムシ（無腸類）に共生する、*Amphidinium* 属の渦鞭毛藻の培養抽出物からこれまでに、ユニークな化学構造をもつ一連の細胞毒性マクロリド化合物・Amphidinolide 類、長鎖ポリオキシ化合物・Colopsinol 類、Luteophanol 類を単離し、それらの化学構造を明らかにしてきた。本シンポジウムでは、*Amphidinium* sp. (Y-42 株)より単離した、強力な殺細胞活性を示す Amphidinolide G と H とその関連化合物、ならびに Amphidinolide W, X, Y の構造解析、殺細胞活性に関する構造活性相関、¹³C 標識化合物を用いた生合成研究について報告する。また、渦鞭毛藻 *Amphidinium* sp. のマクロリド類とポリヒドロキシ化合物の生産性の違いに関して、共生現象、系統発生の面で考察したのであわせて報告する。